

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和05年10月26日

計画の名称	さつま町における通学路の交通安全対策による安全・安心な歩行空間の整備（防災・安全）												
計画の期間	令和02年度～令和04年度（3年間）								重点配分対象の該当	○			
交付対象	さつま町												
計画の目標	さつま町では少子化が進行しており、小・中学生の適正な学習を行うため、小・中学校の統廃合が実施されている。 それに伴い通学路も多様化しており、通学路の安全性に支障をきたしている。 通学路交通安全プログラムに従い、歩行者空間を整備することで、事前に事故を防止し、安全・安心な歩行空間の整備を目指す。												
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	74	A	74	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C / (A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 令和2年	中間目標値	最終目標値 令和4年
1	通学路交通安全プログラムに指定された町道の整備率100%	60%	%	100%
	通学路交通安全プログラムに指定された町道の整備率100%			

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-	避難確保計画の策定	避難行動要支援者名簿の提供
通学路交通安全プログラムを含む														

A 基幹事業

基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況
												R02	R03	R04	R05	R06			
一体的に実施することにより期待される効果																			
備考																			
道路事業	A01-001	道路	一般	さつま町	直接	さつま町	市町村道	交安	湯田原線	歩道整備	さつま町						68	未策定	
	A01-002	道路	一般	さつま町	直接	さつま町	市町村道	交安	永野線	歩道整備	さつま町						6	未策定	
											小計						74		
											合計						74		

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
通学路安全対策会議を通して整備路線の状況確認や意見聴取を行っている。	毎年10月ごろに実施
	公表の方法
	通学路交通安全プログラムにより対策状況等公表。対策率については非公表としている。
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	A01-001 残工事については交通安全対策補助（通学路緊急対策）に移行し、整備を実施している。令和4年度末整備率62% A01-002 路線整備率100%になった。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	A01-001 整備区間について、子供だけでなく近隣住民が安全に通行できる状況となった。 A01-002 防護柵が設置されたことで、近隣住民が安全に通行することが可能となった。
特記事項（今後の方針等）	
通学路交通安全対策会議を定期的を開催することで、危険箇所を抽出し、適宜対策をとる。 人口規模に応じた有効な対策になるように、ハード面だけでなくソフト面と同時に対策を進めていく。	

